

インド・グジャラート州における 牧畜カーストと中小零細企業

篠田 隆 (大東文化大学国際関係学部)

Pastoral Castes and Micro, Small and Medium Enterprises in Gujarat, India

Takashi, SHINODA

はじめに

筆者はグジャラート州の経営者研究の一環として、中小零細企業 (Micro, Small and Medium Enterprises) の経営者分析を行い、グジャラート州の中小零細企業の個票データ (2006-2015 年間の 35 万件の経営者データ) に依拠して、宗教・カーストと経営者との関わりを、産業構成、カテゴリー構成、経営組織、投資額・雇用数、地域分布の項目について具体的に比較検討し、その成果を篠田 (2019) にまとめた。その際に、社会集団間の格差とその動向をみるために、指定カースト (Scheduled Castes:SCs)、指定部族 (Scheduled Tribes:STs)、その他後進諸階級 (Other Backward Classes:OBCs)、その他 (Others) の 4 集団間の経営指標の比較を行い、先進経営集団が商工業の覇権を掌握しているものの、新興の後進経営集団が多大な困難に直面しながらも台頭していることを確認した^(注1)。これら社会集団のうち、指定カーストと指定部族については、個別のカーストあるいは部族を選択し、経済指標の比較を行ったが、その他後進諸階級については、このような個別カースト間の比較を行わなかった。

グジャラート州の牧畜カーストの多くは、その他後進諸階級や指定部族 (半島部のギール自然保護区の領域に居住する牧畜カースト) に認定されている。グジャラート州の牧畜カーストは、アヒール (Ahir)、バルワード (Bharwad)、ラバーリー (Rabari)、ガードヴィー/チャーラン (Gadvi/Charan)、メール (Mer)、ジャート (Jat/Jath) の 6 集団により構成されている。グジャラート州の中小零細企業の個票データに依拠して、彼らの経営展開を比較検討するのが本稿の課題であるが、ガードヴィー/チャーラン、メール、ジャートの 3 集団については、カースト (グループ) 名で登録する経営者はきわめて少数であった。このため、本稿では、カースト (グループ) 名での登録数が比較的多かったアヒール、バルワード、ラバーリーの 3 カーストの中小零細企業経営者の経営の特徴を考察する。

本稿は 2 節で構成される。第 1 節では、牧畜カースト全体の中小零細企業の展開を、産業構成、カテゴリー形態、経営組織、投資額と雇用数、地域分布の諸側面から考察する。第 2 節では、3 種

類の牧畜カースト、すなわち、アヒール、バルワード、ラバーリーの経営比較を通して、牧畜カースト内部の経営格差とその特徴を検討する。

1. 牧畜カースト全体の中小零細企業の展開

(1) 産業構成

中小零細企業の展開を牧畜カースト集団別の比較を中心に検討してみよう。まず、セクション単位の産業分類に基づく産業構成を表1で検討する。同表にはセクションAからUまで21種類の産業別の認可企業総数の実数と時期別企業総数に占める産業別企業数比率の双方が表示されている^(注2)。

筆者は近著(篠田 2019)においてグジャラート州の宗教・カースト集団別の産業構成を検討する際に、産業構成を、1) 製造業中心型(パーティーダール、職人カースト)、2) バランス型(バニヤー、上位カースト)、3) サービス業中心型(バラモン、パンジャービー)、4) 資源開発型(クシャトリア、後進諸階級)、5) 別枠(イスラム教徒、部族民)の5つに区分した。この区分に従うと、牧畜カーストのほとんどは後進諸階級なので、資源開発型となる。

表1にみるように、グジャラート州全体では、製造業の比率が64%と最も高く、それに卸小売、修理(20%)、管理(5%)の順で続いている。グジャラート州の特徴は、他州よりも製造業と卸小売、修理がより展開していることにあり、両者を合わせた比率は83%もの高率を示している。製造業では、植民地期より綿工業や機械工業が展開した。また、グジャラート州はジャイナ教徒、イスラム教徒の商業セクト、ヒンドゥー教の商人カーストが活発な商活動を展開してきた歴史があり、「商業王国」とも呼ばれる。その伝統は、独立後も生きており、これら既存の商業集団は現在でも堅固な商業ネットワークを維持している。

表1：産業構成(セクション)別認可企業数の時期別分布

セクション産業構成		企業数					計	グジャラート
番号		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期		計
A	農林	1	1	2	4	6	14	2888
B	採掘	0	10	10	10	7	37	6008
C	製造	10	46	74	119	117	366	222763
D	電気	0	0	0	1	1	2	532
E	上下水	0	0	0	2	2	4	867
F	建設	0	0	1	13	12	26	6233
G	卸小売、修理	0	0	11	47	57	115	69019
H	輸送	0	0	10	12	14	36	4500
I	宿泊	1	0	0	1	10	12	1241
J	情報	0	4	3	3	3	13	5207
K	財務、保険	0	0	0	2	0	2	1452
L	不動産	0	0	0	1	0	1	624
M	専門的活動	0	1	2	6	1	10	5150
N	管理	0	1	11	32	46	90	18164
O	行政							333
P	教育	0	0	2	0	0	2	521
Q	健康	1	0	0	0	0	1	751
R	芸術							215
S	その他サービス	0	2	1	0	12	15	4453
T	雇用者世帯活動							50
U	団体の活動							15
計		13	65	127	253	288	746	350786
セクション産業構成		比率(%)					計	グジャラート
番号		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	(%)	計 (%)
A	農林	7.7	1.5	1.6	1.6	2.1	1.9	0.8
B	採掘	0.0	15.4	7.9	4.0	2.4	5.0	1.7
C	製造	76.9	70.8	58.3	47.0	40.6	49.1	63.5
D	電気	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.3	0.2
E	上下水	0.0	0.0	0.0	0.8	0.7	0.5	0.2
F	建設	0.0	0.0	0.8	5.1	4.2	3.5	1.8
G	卸小売、修理	0.0	0.0	8.7	18.6	19.8	15.4	19.7
H	輸送	0.0	0.0	7.9	4.7	4.9	4.8	1.3
I	宿泊	7.7	0.0	0.0	0.4	3.5	1.6	0.4
J	情報	0.0	6.2	2.4	1.2	1.0	1.7	1.5
K	財務、保険	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.3	0.4
L	不動産	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.1	0.2
M	専門的活動	0.0	1.5	1.6	2.4	0.3	1.3	1.5
N	管理	0.0	1.5	8.7	12.6	16.0	12.1	5.2
O	行政							0.1
P	教育	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.3	0.1
Q	健康	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
R	芸術							0.1
S	その他サービス	0.0	3.1	0.8	0.0	4.2	2.0	1.3
T	雇用者世帯活動							0.0
U	団体の活動							0.0
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注)「産業構成」は短縮して表記した。その原文は以下の通り。
 A:農林水産業; B:採掘と採石; C:製造; D:電気、ガス、蒸気、空調用電源; E:給水; 下水道、廃棄物管理および修復活動; F:建設; G:卸売業および小売業; 自動車およびオートバイの修理;
 H:輸送と保管; I:宿泊施設と奉仕活動; J:情報とコミュニケーション; K:財務活動と保険活動; L:不動産活動
 O:行政と防衛; 義務的社会保障; M:専門的、科学的、技術的活動; N:管理およびサポートサービス
 P:教育; Q:人間の健康と社会的活動; R:芸術、エンターテインメント、レクリエーション; S:その他のサービス
 活動; T:雇用者としての世帯の活動; U:外部行政機関および団体の活動。

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

牧畜カーストの産業構成は、より明確に資源開発型の産業構成であることを示している。資源開発とは、農林水産業、採掘・採石、建設などの資源開発と資源利用を指す。ちなみに、農林は2%、採掘は5%、建設は4%である。また、管理の比率が12%ときわめて高い。管理およびサポートサービス活動には、知識やノウハウの蓄積は不要で投資額やリスクも小さい。輸送の比率(5%)も高い。これも、リスクの小さいサービス業である。これらのセクションの比率が、グジャラート州全体の比率を上回っている分、製造業の比率は49%と、非常に低い。また、卸小売、修理の比率も15%と低い。このように、製造業と卸小売、修理の比率がともに低いのは、商工業の蓄積が浅い新興集団の特徴のひとつである。

続いて、牧畜カーストの産業構成の時期別展開を検討しよう。表にみるように、個票データに基づき、中小零細企業の登録時期を、第1期(2006-2007年)、第2期(2008-2009年)、第3期(2010-2011年)、第4期(2012-2013年)、第5期(2014-2015年)、の5期に分類した。まず、登録企業数の動向であるが、第1期には13企業に過ぎなかった。その後、第2期から第4期まで倍々に企業数は増加したが、第4期以降の登録企業数の伸びは鈍化している。全期をとおした登録企業数は746企業である。第4期と第5期だけで全登録企業数の73%を占めており、2012年以降に牧畜カーストの経営参入が加速したことが確認できる。

セクション別では、まず、製造業の比率が第1期から第5期にかけて大きく減少したことがわかる。これは、他の経営集団とも共通する特徴で、中小零細企業法が成立した2006年時点では、登録企業の多くは製造業であった。その後の経営展開のなかで、零細企業のサービス業を中心とした非製造業の企業登録が急速に増加し、登録企業数に占める製造業企業の比率は大きく減少した。製造業に次ぐ比率をもつ卸小売・修理は、第3期以降に登録の進んだ新たなセクションである。牧畜カーストが伝統的に卸小売・修理に疎遠であったことが確認できる。管理も第2期以降に急速に展開しているセクションで、これ以降もまだ伸びそうである。資源開発型のセクションのなかで、農林と採掘は初期から登録企業がみられたが、建設の登録は第3期以降となっている。牧畜カーストのなかで、登録なしでの建設業の経営はよくみられる。

(2) カテゴリー構成

中小零細企業法にしたがい、認可企業は建物やプラントへの初期投資額に応じて、中企業、小企業、零細企業の3種類のカテゴリーに分類されている。各カテゴリーはさらに、製造業とサービス業の2種類の業態に区分されている。同カテゴリーであっても、業態により、初期投資額の基準が異なっている^(注3)。表2にみるように、グジャラート州全体の認可企業数については、製造業の比率(59%)はサービス業(41%)を上回っているのに対して、牧畜カーストの認可企業では、サービス業の比率(55%)が製造業(45%)を上回り、対照的である。また、カテゴリー別の認可企業数比率の分布では、グジャラート州全体の認可企業数は小企業数比率で牧畜カーストの比率を若干上回っているのに対して、牧畜カーストの認可企業は中企業数比率でグジャラート州全体の企業数比率を上回っている。中企業の比率が若干であれ、グジャラート州全体の企業数比率を上回ってい

表2：カテゴリー別認可企業数の時期別分布

カテゴリー	業態	企業数					計	グジャラート 計
		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期		
中企業	製造業		3		0	2	5	1455
	サービス業		0		1	1	2	182
	計		3		1	3	7	1637
零細企業	製造業	6	36	63	97	83	285	175344
	サービス業	1	11	57	138	187	394	140952
	計	7	47	120	235	270	679	316296
小企業	製造業	5	13	5	14	10	47	29811
	サービス業	1	2	2	3	5	13	3042
	計	6	15	7	17	15	60	32853
計	製造業	11	52	68	111	95	337	206610
	サービス業	2	13	59	142	193	409	144176
	計	13	65	127	253	288	746	350786
カテゴリー	業態	比率(%)					計 (%)	グジャラート 計(%)
		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期		
中企業	製造業	0.0	4.6	0.0	0.0	0.7	0.7	0.4
	サービス業	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.3	0.1
	計	0.0	4.6	0.0	0.4	1.0	0.9	0.5
零細企業	製造業	46.2	55.4	49.6	38.3	28.8	38.2	50.0
	サービス業	7.7	16.9	44.9	54.5	64.9	52.8	40.2
	計	53.8	72.3	94.5	92.9	93.8	91.0	90.2
小企業	製造業	38.5	20.0	3.9	5.5	3.5	6.3	8.5
	サービス業	7.7	3.1	1.6	1.2	1.7	1.7	0.9
	計	46.2	23.1	5.5	6.7	5.2	8.0	9.4
計	製造業	84.6	80.0	53.5	43.9	33.0	45.2	58.9
	サービス業	15.4	20.0	46.5	56.1	67.0	54.8	41.1
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

ることは、牧畜カーストのカテゴリー構成が高度化していることを示すわけではない。カーストの人口規模に比して登録企業数が僅少であり、そのために、若干数の中企業の比率が少し大きめにあらわれていると捉えることができる。零細企業の比率はともに90%を超えており、カテゴリー別の企業数比率の分布は近似している。しかし、業態の比率は大きく異なっている。とりわけ、認可企業数の圧倒的多数を占める零細企業における業態別比率では、グジャラート州全体の認可企業は製造業の比率が優勢なのに対して、牧畜カーストの場合は、サービス業の比率が優勢である。

時期別展開の特徴は、(1) 小企業の企業数比率は、第1期には46%もの高率を占めていたが、その後、大きく減少し、第5期には5%ほどになっていること、(2) 中企業は第2期からあらわれ、それ以降、中企業数の比率も減少していること、(3) 零細企業の比率は第1期には54%であったが、第3期には90%台に増加し、その後もその水準で推移していること、(4) 中企業と小企業の業態別登録企業数比率では全期をとって製造業の比率が優勢であること、(5) 零細企業でも第3期までは製造業の比率がサービス業を上回っていたが、第4期以降はサービス業の比率が優勢であること、とまとめられる。このように、初期の登録企業数の少ない第1期と第2期には、小企業や中企業の比率が比較的大きかった。その後、第2期から第3期にかけて登録企業数が大きく増加するとともに、零細企業の登録企業数比率が他を圧倒するようになった。業態別の比率の変化は零細企業にのみ起こったのではなく、中企業や小企業においてもサービス業の比率は増した。カテゴリー構成と業態構成の両面において、第3期が大きな転換期となっていることが確認できる。

(3) 経営組織

経営組織と企業数のかかわりを検討しよう。表3に、経営組織別業態別企業数の時期別分布、を掲げる。ここでの経営組織のうち、「協同組合」は農業協同組合やミルク生産者協同組合を指す。「ヒンドゥー家族会社」(Hindu Undivided Family) はヒンドゥー教徒の合同家族を単位とする会社であ

表3：経営組織別業態別企業数の時期別分布

経営組織	産業分類	企業数					計	グジャラート計
		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期		
協同組合	製造業						639	
	サービス業						48	
	計						687	
ヒンドゥー家族会社	製造業						654	
	サービス業					1	1	511
	計					1	1	1165
パートナーシップ	製造業	4	12	7	10	10	43	26471
	サービス業	1	0	2	3	5	11	4686
	計	5	12	9	13	15	54	31157
有限会社	製造業	3	5	2	3	4	17	10848
	サービス業							1873
	計	3	5	2	3	4	17	12721
個人企業	製造業	4	35	59	98	81	277	166834
	サービス業	1	13	56	139	187	396	136733
	計	5	48	115	237	268	673	303567
株式会社	製造業							875
	サービス業							114
	計							989
その他	製造業							289
	サービス業			1			1	211
	計			1			1	500
計	製造業	11	52	68	111	95	337	206610
	サービス業	2	13	59	142	193	409	144176
	計	13	65	127	253	288	746	350786
経営組織	産業分類	比率(%)					計 (%)	グジャラート計 (%)
		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期		
協同組合	製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	サービス業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
ヒンドゥー家族会社	製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	サービス業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.1
	計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.3
パートナーシップ	製造業	30.8	18.5	5.5	4.0	3.5	5.8	7.5
	サービス業	7.7	0.0	1.6	1.2	1.7	1.5	1.3
	計	38.5	18.5	7.1	5.1	5.2	7.2	8.9
有限会社	製造業	23.1	7.7	1.6	1.2	1.4	2.3	3.1
	サービス業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	計	23.1	7.7	1.6	1.2	1.4	2.3	3.6
個人企業	製造業	30.8	53.8	46.5	38.7	28.1	37.1	47.6
	サービス業	7.7	20.0	44.1	54.9	64.9	53.1	39.0
	計	38.5	73.8	90.6	93.7	93.1	90.2	86.5
株式会社	製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	サービス業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
その他	製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	サービス業	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.1	0.1
	計	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.1	0.1
計	製造業	84.6	80.0	53.5	43.9	33.0	45.2	58.9
	サービス業	15.4	20.0	46.5	56.1	67.0	54.8	41.1
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

る。「パートナーシップ」(Partnership)はパートナーの間に、資金、労働、技術、経験、ノウハウを共有し合える利点がある一方、経営や利益分配を巡る確執が表れやすい経営形態である。パートナーの組み合わせは、親族や同族(同カースト)にほぼ限定されている。「有限会社」(Private Limited Company)は経営責任が有限な会社、「株式会社」(Public Limited Company)は株式に基づく会社である。「個人企業」(Proprietor)は自営業において一般的な形式の企業である。「その他」には、「自助グループ」(Self Help Group)、「信託」(Trust)、「記載なし」の企業が含まれている。このうち、「協同組合」、「株式会社」は牧畜カーストの登録企業には含まれていないが、グジャラート州全体の企業と比較するために、表に含めた。

経営組織については、グジャラート州全体の企業と牧畜カーストの企業間での比率分布の違いは小さい。ともに、「個人企業」が90%前後の高率を占め、それに、「パートナーシップ」が7~8%、「有限会社」が2~3%で続いている。わずかな違いではあるが、「パートナーシップ」と「有限会社」ではグジャラート州全体の企業の比率が牧畜カーストの同比率を上回っている。逆に、「個人企業」では牧畜カーストの比率がグジャラート州全体の企業の比率を4ポイントほど上回っている。「パートナーシップ」と「有限会社」は経営基盤の強固な集団でより一般的な経営形態であるのに対して、「個人企業」はノウハウ、ネットワーク、資金の欠如する集団でより一般的な経営形態である。「株式会社」の企業がまったくみられないのも、牧畜カーストの経営基盤の相対的な脆弱性をあらわしている。業態については、「個人企業」の業態別比率に、両集団の違いが明瞭に表れている。牧畜カーストはサービス業が、グジャラート州全体の企業では製造業が優勢である。

時期別の組織形態別産業別企業数比率の変動の特徴として、(1)業態構成が大きく変動し、第1期には製造業が80%以上の比率を占めていたのが、第3期以降は急減したこと、(2)組織形態別企業数比率では、第1期に39%であった個人企業が第3期以降は90%台に比率を上げたこと、(3)これに対して、第1期に39%であったパートナーシップは第3期以降10%を下回ったこと、(4)第1期に23%であった有限会社の企業数比率は、第3期以降は1%台に大きく減少したこと、(5)有限会社の業態は全期をとって製造業のみであること、(6)個人企業の業態でも第3期までは製造業が優勢であったが、第4期以降、サービス業が優勢になったこと、が確認できる。

(4) 投資額と雇用数

カテゴリー別企業の投資額と雇用数の経年変化を表4で検討してみよう。同表での平均値とは企業当たりの数値のことである。ここでの投資額はデフレートしていないので、平均投資額の動向を厳密に比較することはできない。おおまかな動向把握が目的である。比率は、総合計(全期の合計)に対する各時期各カテゴリーの投資総額や雇用総数の比率を表示した。各時期の企業数は同数なので、比率は時期間の変動をみるのに適しているためである。

投資額と雇用数をもっとも重要な経済指標であり、その動向には、これまで検討してきた産業構成、カテゴリー構成、経営組織の変動のほか、技術革新などの多様な要因が影響を与えている。

表 4：カテゴリー別企業の投資額と雇用数の時期別分布

カテゴリー	項目	投資額(10万ルピー)					計	グジャラート 計
		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期		
中企業	平均値		828.23		500.00	669.15	713.16	881.8
	総合計の%		11.7%		2.4%	9.5%	23.5%	15.8%
小企業	平均値	197.00	144.32	141.16	166.94	197.15	168.84	131.3
	総合計の%	5.6%	10.2%	4.7%	13.4%	13.9%	47.7%	47.3%
零細企業	平均値	11.59	15.27	10.58	7.88	8.05	8.97	10.6
	総合計の%	.4%	3.4%	6.0%	8.7%	10.2%	28.7%	36.8%
計	平均値	97.16	82.57	17.78	20.51	24.78	28.44	26.0
	総合計の%	6.0%	25.3%	10.6%	24.5%	33.6%	100.0%	100.0%

カテゴリー	項目	雇用数(人)					計	グジャラート 計
		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期		
中企業	平均値		766.67		5.00	24.33	339.71	75.1
	総合計の%		33.0%		.1%	1.0%	34.2%	4.5%
小企業	平均値	33.33	18.60	19.14	10.59	9.53	15.60	21.6
	総合計の%	2.9%	4.0%	1.9%	2.6%	2.1%	13.4%	26.2%
零細企業	平均値	5.71	9.81	5.43	4.77	5.09	5.37	5.9
	総合計の%	.6%	6.6%	9.4%	16.1%	19.7%	52.4%	69.2%
計	平均値	18.46	46.77	6.19	5.16	5.52	9.33	7.7
	総合計の%	3.4%	43.7%	11.3%	18.7%	22.8%	100.0%	100.0%

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

まず、投資額から検討しよう。牧畜カーストの企業の平均投資額は284万ルピーで、グジャラート州全体の企業の260万ルピーを若干上回っている。3種類のカテゴリーのなかで、小企業の平均投資額がグジャラート州全体の企業の同投資額を大きく上回っており、これが牧畜カーストの企業全体の平均投資額を押し上げる要因になった。ちなみに、中企業と零細企業の平均投資額は、グジャラート州全体の企業の平均投資額を下回っている。

総投資額に占めるカテゴリー別の比率を比較すると、牧畜カーストの中企業の同比率は24%であり、グジャラート州全体の企業の同比率を8ポイントほど上回っている。小企業の同比率は47%ほどで、両者の相違は小さい。しかし、総投資額に占める零細企業の比率は29%に過ぎず、グジャラート州全体の企業の同比率を8ポイントも下回っている。零細企業の企業数比率は高いのに、平均投資額が低いためである。ここに、牧畜カーストの経営基盤の弱さが集約的にあらわれていると捉えることができる。

時期別の投資額の変動の特徴は、(1) 中企業の平均投資額は第2期がもっとも高く、その後減少していること、(2) この第2期における中企業の投資額が、牧畜カーストの総投資額に占める中企業の比率を押し上げる重要な要因になったこと、(3) 小企業の平均投資額は第1期から第3期にかけて低減したが、その以後、増加していること、(4) 零細企業の平均投資額は全期をとおして低減する傾向にあること、とまとめられる。

次に、平均雇用数を検討しよう。牧畜カーストの企業の平均雇用数9.3人はグジャラート州全体の企業の7.7人を1.6人ほど上回っている。これはひとえに、中企業の平均雇用数が339人と破格に大きいため、その他のカテゴリーでは小企業も零細企業もともにグジャラート州全体の企業の平均雇用数を下回っている。このため、総雇用数に占めるカテゴリー別の比率分布は両集団で大幅に異なり、牧畜カーストの場合は、中企業の比率が34%と高いのに対して、グジャラート州全体の企業の場合は、零細企業が69%を占め、雇用創出に貢献している。

時期別の雇用数の変動について特記すべきは、平均雇用数が第2期に47人と突出した人数になったことである。それは、第2期の企業数が少ないなかで、中企業3社で平均766人もの大規模な雇用があったためである。この第2期を除くと、平均雇用数は逡減の傾向にある。また、中企業でこれほどの平均雇用数があったのは第2期のみで、その後は5人、24人へと大幅に減少した。小企業の平均雇用数は第1期の33人から第5期の10人まで低減した。零細企業の平均雇用数は第2期に10人と若干増加したが、それを除くと、全期をとおして5人前後であった。

(5) 地域分布

グジャラート州は大きく4つの地域に区分されている。個票には県名が記載されており、それに基づき4地域区分を行った。中央グジャラートにはアーメダバード市、北グジャラートにはガンディーナガル市、半島部にはラージコート市、南グジャラートにはスーラト市などが含まれる。これらのうち、アーメダバード市、ラージコート市、スーラト市は植民地期から商工業が展開していたが、独立以降、新興工業都市が形成されるとともに、工業団地もグジャラート各地に形成された。

表5に、地域別カテゴリー別企業数の経年変化別分布、を掲げる。グジャラート州全体の企業と牧畜カーストの企業の立地はともに、中央グジャラートと南グジャラートを主要な地域とするが、両地域の比率は大きく異なっている。グジャラート州全体の企業は、南グジャラートに49%、中央グジャラートに34%と南グジャラートが主体なのに対して、牧畜カーストの企業は、中央グジャラートに54%、南グジャラートに33%と中央グジャラートが主体となっている。グジャラート州の牧畜カーストは、中央グジャラート、北グジャラート、半島部そしてカッチに厚く分布しているので、中央グジャラートへのアクセスが容易である。にもかかわらず、南グジャラートにも多数の牧畜カーストが移住し経営を行っていることが確認できる。

カテゴリー構成も地域により異なっている。グジャラート州全体の企業の場合、中央グジャラートと南グジャラートのカテゴリー構成（中企業、小企業、零細企業の企業数比率分布）は類似しているが、牧畜カーストの場合は、中央グジャラートのカテゴリー構成は南グジャラートよりも高度化（中企業、小企業などの規模の大きい企業数比率がより高いこと）している。南グジャラートよりも強固な経営基盤を有していることの証であると捉えることができよう。南グジャラートでは、対照的に、零細企業が主体になっている。

時期別の地域別カテゴリー別企業数とその比率の変動の特徴は、(1) 第1期から中央グジャラートは企業立地の中心地であり、その比率は第2期を除き、50%を超えていること、(2) 南グジャラートは第1期から中央グジャラートに次ぐ企業数比率をもっており、その比率は、その後逡増していること、(3) 半島部は第2期、第3期に10%を超える比率をもっていたが、その後、5%台まで比率を下げていること、(4) 北グジャラートには中企業は立地しておらず、小企業と零細企業の比率も減少していること、とまとめることができる。このように、半島部と北グジャラートの企業立地上の重要性は低下し、第4期以降は中央グジャラートと南グジャラートに二極化する状況となっている。

表 5：地域別カテゴリー別企業数の時期別分布

地域	カテゴリー	企業数					計	グジャラート 計
		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期		
中央グジャラ	中企業	0	2	0	1	2	5	481
	小企業	4	11	3	9	7	34	10492
	零細企業	4	16	71	126	146	363	107540
	計	8	29	74	136	155	402	118513
北グジャラ	中企業							183
	小企業	1	0	3	2	1	7	2826
	零細企業	0	2	2	5	5	14	7238
	計	1	2	5	7	6	21	10247
半島部	中企業	0	0	0	0	1	1	445
	小企業	1	2	0	5	3	11	7007
	零細企業	0	16	14	20	12	62	41321
	計	1	18	14	25	16	74	48773
南グジャラ	中企業	0	1	0	0	0	1	528
	小企業	0	2	1	1	4	8	12528
	零細企業	3	13	33	84	107	240	160197
	計	3	16	34	85	111	249	173253
計	中企業	0	3	0	1	3	7	1637
	小企業	6	15	7	17	15	60	32853
	零細企業	7	47	120	235	270	679	316296
	計	13	65	127	253	288	746	350786

地域	カテゴリー	比率(%)					計 (%)	グジャラート 計 (%)
		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期		
中央グジャラ	中企業	0.0	3.1	0.0	0.4	0.7	0.7	0.1
	小企業	30.8	16.9	2.4	3.6	2.4	4.6	3.0
	零細企業	30.8	24.6	55.9	49.8	50.7	48.7	30.7
	計	61.5	44.6	58.3	53.8	53.8	53.9	33.8
北グジャラ	中企業							0.1
	小企業	7.7	0.0	2.4	0.8	0.3	0.9	0.8
	零細企業	0.0	3.1	1.6	2.0	1.7	1.9	2.1
	計	7.7	3.1	3.9	2.8	2.1	2.8	2.9
半島部	中企業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.1
	小企業	7.7	3.1	0.0	2.0	1.0	1.5	2.0
	零細企業	0.0	24.6	11.0	7.9	4.2	8.3	11.8
	計	7.7	27.7	11.0	9.9	5.6	9.9	13.9
南グジャラ	中企業	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
	小企業	0.0	3.1	0.8	0.4	1.4	1.1	3.6
	零細企業	23.1	20.0	26.0	33.2	37.2	32.2	45.7
	計	23.1	24.6	26.8	33.6	38.5	33.4	49.4
計	中企業	0.0	4.6	0.0	0.4	1.0	0.9	0.5
	小企業	46.2	23.1	5.5	6.7	5.2	8.0	9.4
	零細企業	53.8	72.3	94.5	92.9	93.8	91.0	90.2
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

2. 牧畜カースト集団内部の経営格差

前節では、牧畜カースト集団の経営展開をグジャラート州全体の企業と比較検討した。本節では、個別の牧畜カーストのなかで、経営データが活用できる、アヒール、バルワード、ラバーリーの3カーストの経営の特徴を比較検討する。

(1) 産業構成

個別カーストの産業構成を検討しよう。表6に、牧畜カースト別産業構成(セクション)別認可企業数とその比率の分布、を掲げる。ここでの個別産業名も略記しているので、その詳細は注2で

確認されたい。同表にみるように、分析対象の経営者数はアヒール 293 人、バルワード 231 人、ラバーリー 222 人の計 746 人である。牧畜カースト全体の女子経営者数の比率は 6.7%で、グジャラート州全体の経営者数に占める女子の比率を若干下回っている。

牧畜カースト全体の産業構成の特徴はすでに表 1 で検討してあるので、ここでは、男女間の就業構成の相違を中心に検討する。男子は経営者数の多数を占めるので、男子の産業構成は牧畜カースト全体の産業構成と近似しており、「製造業」、「卸小売、修理」、「管理」が主要な産業となっている。これに対して、女子の場合は、産業構成が製造業に集中しており、76%もの高率を示している。それに次ぐのは、「輸送」「建設」であるがいずれも 5%前後に過ぎない。男子の産業構成で優勢な「卸小売、修理」、「管理」の比率は 2%と、非常に低い。なぜ、女子の産業構成が製造業に集中しているのかは、現時点では把握できていない。

インド政府や州政府は女子の経営参入を促進するために、優遇措置も講じているが、このような優遇措置の受益者がどのくらい対象経営者のなかにいるのかは確認できない。また、優遇措置を得るために、配偶者や家族の女性の名前を借りて応募する例もあるといわれているが、この点も確認することはできない。このように、女性名での認可の場合には、優遇措置や名義貸しも考慮しなければならないが、実際に女性が経営に参入する場合も少なからずみられる。それゆえ、女子の経営者数比率の高低は、その集団（カーストや宗教）における女性の社会活動に対する許容度の大きさもあらわしているものと捉えることができよう。

カースト別の産業構成の検討に移ろう。3つの牧畜カーストのなかで、アヒールがもっとも古い時代にグジャラートに入り、人口が過疎であった半島部で土地を所有することができた。そのため、牧畜業からの離脱も早くから進み、農業や商工業での経済基盤も比較的強固である。ラバーリーはラージャスターン州からグジャラート州の広域に居住し、牧畜業や農牧業を営んできた。サブカーストにより、ラクダ、牛、水牛などの大型家畜を飼養する集団と羊やヤギなどの小型家畜を飼養する集団に分かれている。小型家畜を飼養する集団のなかには、州を越え移牧する放牧者もみられる。ラバーリーは Rabari や Raika 名のほかに、Desai 名をよく使用する。デーサイーは上位カースト集団も使用する姓である。本調査の個票には多数のデーサイー名が含まれているが、腑分けができないので、ラバーリー名だけの分析になる。デーサイー名でのラバーリーが少なからずいるとおもわれる。バルワードはグジャラート州の牧畜カーストのなかで、もっとも人口の多いカーストである。ラバーリーと一定の棲み分けが行われ、中央部と半島部に厚く居住している。

アヒールの産業構成の特徴は、「製造業」と「卸小売、修理」の比率が他の 2 カーストを大きく上回っていることにある。「製造業」には一定のノウハウと初期投資が必要であり、「卸小売、修理」にはネットワークが求められる。早くから定着し職業転換を行った成果が、この産業構成にあらわれているとみなすことができる。アヒールが他の 2 カーストの比率を大きく下回っている産業は、「管理」である。この管理およびサポートサービスは低資本低リスクで参入できるサービス業である。アヒールの経営者に占める女子の比率は 8.8%で、牧畜カーストのなかではもっとも高い。これも、アヒール社会における女性の社会活動に対する許容性をあらわす指標とみなすことができる。女子の産業構成は製造業に集中している。

表 6：牧畜カースト別産業構成（セクション）別認可企業数とその比率の分布

セクション 番号	産業構成	企業数											
		アヒール			バルワード			ラバーリー			合計		
		女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計
A	農林	0	1	1	1	7	8	0	5	5	1	13	14
B	探掘	1	22	23	0	2	2	0	12	12	1	36	37
C	製造	21	146	167	13	78	91	4	104	108	38	328	366
D	電気	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	2
E	上下水				0	2	2	0	2	2	0	4	4
F	建設	1	6	7	1	15	16	0	3	3	2	24	26
G	卸小売、修理	0	60	60	1	25	26	0	29	29	1	114	115
H	輸送	1	4	5	1	12	13	1	17	18	3	33	36
I	宿泊				0	12	12				0	12	12
J	情報	0	9	9	1	2	3	0	1	1	1	12	13
K	財務、保険	0	1	1				0	1	1	0	2	2
L	不動産	0	1	1							0	1	1
M	専門的活動	1	5	6	0	4	4				1	9	10
N	管理	1	7	8	0	47	47	0	35	35	1	89	90
P	教育				1	1	2				1	1	2
Q	健康							0	1	1	0	1	1
S	その他サービス	0	4	4	0	4	4	0	7	7	0	15	15
	合計	26	267	293	19	212	231	5	217	222	50	696	746
セクション 番号	産業構成	比率 (%)											
		アヒール			バルワード			ラバーリー			合計		
		女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計
A	農林	0.0	0.4	0.3	5.3	3.3	3.5	0.0	2.3	2.3	2.0	1.9	1.9
B	探掘	3.8	8.2	7.8	0.0	0.9	0.9	0.0	5.5	5.4	2.0	5.2	5.0
C	製造	80.8	54.7	57.0	68.4	36.8	39.4	80.0	47.9	48.6	76.0	47.1	49.1
D	電気	0.0	0.4	0.3	0.0	0.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3
E	上下水	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.9	0.0	0.9	0.9	0.0	0.6	0.5
F	建設	3.8	2.2	2.4	5.3	7.1	6.9	0.0	1.4	1.4	4.0	3.4	3.5
G	卸小売、修理	0.0	22.5	20.5	5.3	11.8	11.3	0.0	13.4	13.1	2.0	16.4	15.4
H	輸送	3.8	1.5	1.7	5.3	5.7	5.6	20.0	7.8	8.1	6.0	4.7	4.8
I	宿泊	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.6
J	情報	0.0	3.4	3.1	5.3	0.9	1.3	0.0	0.5	0.5	2.0	1.7	1.7
K	財務、保険	0.0	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.3	0.3
L	不動産	0.0	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
M	専門的活動	3.8	1.9	2.0	0.0	1.9	1.7	0.0	0.0	0.0	2.0	1.3	1.3
N	管理	3.8	2.6	2.7	0.0	22.2	20.3	0.0	16.1	15.8	2.0	12.8	12.1
P	教育	0.0	0.0	0.0	5.3	0.5	0.9	0.0	0.0	0.0	2.0	0.1	0.3
Q	健康	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.1	0.1
S	その他サービス	0.0	1.5	1.4	0.0	1.9	1.7	0.0	3.2	3.2	0.0	2.2	2.0
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

バルワードの産業構成の特徴は、資源開発型の産業の比率が比較的高いことにある。ちなみに、農林は3.5%、建設は7%で、3カースト中も最も高い。また、管理の比率20%も最も高い。これに対して、「製造業」と「卸小売、修理」の比率は3カースト中も最も低く、アヒールの産業構成と対照的である。バルワードの経営者に占める女子の比率は8.2%であり、カテゴリ別では製造業の比率が最も高いものの、資源開発型の農林や建設の比率も男子とそれほど変わらない。

ラバーリーの産業構成は、アヒールとバルワードの中間型である。「製造業」と「卸小売、修理」の比率はアヒールに、農林や管理の比率はバルワードに次いでいる。ただし、資源開発型のカテゴリ比率がそれほど高いわけではない。都市に居住するラバーリーが大きな影響力をもつ分野に建設業があるが、本調査におけるラバーリーの建設業の比率は1.4%ときわめて低水準である。中小零細企業に登録しない経営者が多数存在するためだとおもわれる。ラバーリーの経営者に占める女子の比率は2.3%で、牧畜カーストのなかでは最も低い。産業構成は製造業に集中している。

(2) カテゴリ構成

カースト集団の経営基盤の強弱は、カテゴリ別の代表者数（企業数と同数）とその比率構成に端的にあらわれる。また、業態別の比率分布は、製造業中心型、製造業・サービス業バランス型、サー

ビス業中心型などの類型を把握するためのつがかりとなる。これらを検討するために、表7に、カー
スト集団別カテゴリー別業態別代表者数と代表者数比率の分布、を掲げる。表中の比率とは、カー
スト集団別代表者総数に占めるカテゴリー別業態別代表者数の比率であり、中企業、小企業、零細
企業間の比率構成が把握できる。

まず、代表者数の実数から検討しよう。3カーストの経営者数の違いはそれほど大きくはない。
しかし、中企業や小企業などの資本規模の大きいカテゴリーにおけるカースト別経営者数の違いは
大きい。ちなみに、3カテゴリーのなかで資本規模（施設やプラントへの初期投資額）のもっとも
大きい中企業の経営者はアヒール4人、バルワード3人であり、ラバーリーはいない。小企業の経
営者は3カーストにみられるが、経営者数の違いは大きい。アヒールの34人がバルワードの14人
とラバーリーの12人を圧倒している。

表7：カースト集団別カテゴリー別業態別代表者数と代表者数比率の分布

カテゴリー	業態	代表者数(人)			合計	比率(%)			合計
		アヒール	バルワード	ラバーリー		アヒール	バルワード	ラバーリー	
中企業	製造業	3	2		5	1.0	0.9	0.0	0.7
	サービス業	1	1		2	0.3	0.4	0.0	0.3
	小計	4	3		7	1.4	1.3	0.0	0.9
小企業	製造業	30	9	8	47	10.2	3.9	3.6	6.3
	サービス業	4	5	4	13	1.4	2.2	1.8	1.7
	小計	34	14	12	60	11.6	6.1	5.4	8.0
零細企業	製造業	125	70	90	285	42.7	30.3	40.5	38.2
	サービス業	130	144	120	394	44.4	62.3	54.1	52.8
	小計	255	214	210	679	87.0	92.6	94.6	91.0
合計	製造業	158	81	98	337	53.9	35.1	44.1	45.2
	サービス業	135	150	124	409	46.1	64.9	55.9	54.8
	合計	293	231	222	746	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

このカテゴリー構成の相違は、その比率分布に明確にあらわれている。アヒールは中企業で
1.4%、小企業で11.6%の高い比率を占めている。両者の合計は13%にもなる。グジャラート州の
なかで先進的経営集団をなすパーティーダールやバニヤーの高度なカテゴリー構成に匹敵する数値
である。3カーストのなかで、アヒールに次ぐのがバルワードである。

中企業と小企業を合わせて7%ほどになる。これはグジャラートの主要なカースト集団のなかで
は、バラモン、クシャトリヤ、職人カーストのカテゴリー構成に近似した数値である。ラバーリー
のカテゴリー構成は牧畜カーストのなかではもっとも低次であり、零細企業の比率が95%ほどと
なっている。グジャラートのイスラム教徒の96%の比率に近い。

さらに、業態別の比率の分布から、アヒールは製造業中心型であることが確認できる。ちなみに、
アヒールの全カテゴリーにおける製造業の比率は54%である。中企業や小企業が製造業主体であるほ
か、零細企業においても、製造業の比率はサービス業の比率と拮抗している。これに対して、バルワ
ードはサービス業中心型である。中企業と小企業では、製造業の比率がサービス業を上回っているもの
の、バルワードの全カテゴリーにおけるサービス業の比率は65%もの高率を示している。ラバーリー
も全カテゴリーにおけるサービス業の比率は製造業を上回り56%となっており、サービス業中心型に

分類できる。このように、カテゴリー構成と業態別の比率の双方において、アヒールは経営基盤が強く、他の牧畜カーストと大きな違いのあることを示している。バルワードのカテゴリー構成はラバーリーのカテゴリー構成よりも若干高度化しているが、カテゴリー全体としてサービス業の比率が非常に高い点に経済基盤の脆弱性をみとることができる。ラバーリーのカテゴリー構成は3カーストのなかでもっとも低次であり、その克服が、彼らの経営展開の喫緊の課題となっている。

(3) 経営組織

次に、カースト集団別の経営組織の構成を検討してみよう。表8に、カースト集団別経営組織別代表者数と代表者数比率の分布、を掲げる。牧畜カーストの経営組織には株式会社と協同組合は含まれないので、表に示した5種類の経営組織のみである。これらのなかで、いずれのカースト集団でも個人企業がもっとも大きな比率を占めている。とりわけ、ラバーリーとバルワードでは93～94%ほどの高い比率を示している。個人企業はもっとも容易に商工業に参入できる経営組織であり、零細企業の製造業とサービス業はほぼ個人企業の形態をとっている。そのため、カースト別の個人企業内の製造業とサービス業の比率は、同カーストの零細企業内の製造業とサービス業の比率にほぼ対応している。

表8：カースト集団別経営組織別代表者数と代表者数比率の分布

経営組織	業態	代表者数(人)			合計	比率(%)			合計
		アヒール	バルワード	ラバーリー		アヒール	バルワード	ラバーリー	
ヒンドゥー 家族会社	サービス業	1			1	0.3	0.0	0.0	0.1
パートナー シップ	製造業	25	9	9	43	8.5	3.9	4.1	5.8
	サービス業	4	4	3	11	1.4	1.7	1.4	1.5
	計	29	13	12	54	9.9	5.6	5.4	7.2
有限会社	製造業	15	2		17	5.1	0.9	0.0	2.3
個人企業	製造業	118	70	89	277	40.3	30.3	40.1	37.1
	サービス業	130	145	121	396	44.4	62.8	54.5	53.1
	計	248	215	210	673	84.6	93.1	94.6	90.2
その他	サービス業			1	1	0.0	0.4	0.0	0.1
合計	製造業	158	81	98	337	53.9	35.1	44.1	45.2
	サービス業	135	150	124	409	46.1	64.9	55.9	54.8
	合計	293	231	222	746	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

投資額や雇用数など経営規模の大きな事業は個人企業以外の経営組織をとっている。個人企業では資金調達、技術、ノウハウの面で大きな制約があるためである。なかでも、有限会社は株式会社と並び、資本規模の大きな事業に対応する経営組織である。また、ここでの有限会社はすべて製造業であり、サービス業の事例はみられない。やはり、アヒールの有限会社の比率が5%ともっとも高く、バルワードの同比率1%を大きく上回っている。ラバーリーには有限会社はみられない。

パートナーシップでの経営展開もカーストの経営基盤と有意に相関している。パートナーの組み合わせのほとんどは、親族や同族(同カースト)に限定されているため、カーストの経営基盤とネットワークが強固なほど、パートナーシップも展開しやすい。ここでも、アヒールの比率が10%ともっとも大きく、バルワードとラバーリーの5%台の比率を上回っている。前表との対比から、パー

トナーシップは小企業と対応する経営組織であることが推測できる。このように、経営組織別の代表者数の分布にも、カーストの経営基盤の強弱が反映されていることが確認できる。

(4) 投資額と雇用数

カースト集団別の投資額と雇用数の推移を表9で検討しよう。表には、時期別のユニット当たりの投資額(単位は10万ルピー)と雇用数(人)のほかに、全期を通しての平均投資額と平均雇用数、全期を通しての平均投資総額と平均雇用総数およびそれらの比率を表示してある。なお、投資額はデフレートしていないが、対象期間が10年間と比較的短く、また、いずれのカーストも5期にわたり投資を行っているので、投資額の動向把握に大きな支障はない。

全期を通しての平均投資総額には、中小零細企業を設立したカースト集団の経済的な実力が端的に表れている。アヒールが対象期間の牧畜カーストの平均投資総額の54%を占め、バルワードの29%、ラバーリーの16%を大きく上回っている。この結果には、(1)アヒールの企業数が他の2カーストの企業数を若干上回っていること、(2)アヒールのカテゴリー構成がもっとも高度化しており、それにバルワード、ラバーリーの順で続いていること、(3)各カテゴリーの業態についても、アヒールの製造業の比率は他の2カーストの同比率を大きく上回っていること、などが反映している。

表9：カースト集団別時期別平均投資額と平均雇用数の推移

項目	時期	アヒール	バルワード	ラバーリー	合計
平均投資額 (10万ルピー)	第1期	101.5	24.0	123.0	97.2
	第2期	98.5	59.2	34.5	82.6
	第3期	25.2	11.1	11.2	17.8
	第4期	24.6	26.7	7.3	20.5
	第5期	26.2	28.3	20.1	24.8
	全期平均	39.4	26.9	15.7	28.4
	全期平均投資総額	11536	6204	3476	21216
投資総額比率(%)	54.4%	29.2%	16.4%	100.0%	
平均雇用数 (人)	第1期	19.5	7.0	18.0	18.5
	第2期	63.1	9.8	10.4	46.8
	第3期	6.8	4.7	6.4	6.2
	第4期	5.7	5.1	4.5	5.2
	第5期	5.6	6.1	4.9	5.5
	全期平均	15.2	5.7	5.3	9.3
	全期平均雇用総数	4462	1317	1182	6961
雇用総数比率(%)	64.1%	18.9%	17.0%	100.0%	

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

全期平均投資額には、カテゴリー構成、業態構成が大きく反映している。カテゴリー構成がより高度化し、製造業にもしっかりとした基盤を持つアヒールの全期平均投資額は394万ルピーであり、グジャラート州の先進経営集団であるパーティーダールの全期平均投資額320万ルピー、パニヤーの319万ルピーをも上回っている。バルワードの全期平均投資額は269万ルピーであり、これはバ

ラモンの 211 万ルピー、パンジャービーの 201 万ルピーと比べても遜色はない。ただし、ラバーリーの全期平均投資額 157 万ルピーは「その他後進諸階級」(OBC) の 197 万ルピーを下回り、イスラム教徒の 160 万ルピーと同水準である^(注4)。

平均投資額の時期別動向にも、カテゴリー構成、業態構成の変化が大きな影響を与えている。初期にはいずれの牧畜カーストの登録企業数自体が少なく、そのなかでのカテゴリー構成は相対的に高かったため、平均投資額も大きくあらわれている。アヒールの場合は、第 1 期と第 2 期、バルワードでは第 2 期、ラバーリーでは第 1 期の平均投資額が突出している。このため、牧畜カースト全体の平均投資額も第 1 期は 972 万ルピー、第 2 期は 826 万ルピーとずば抜けて大きい。第 3 期以降は登録企業数とそのなかでの零細企業数が増加したため、平均投資額は 200 万ルピー台に減少した。平均投資額の牧畜カースト間格差は、総じて、初期に大きかったが、最新の第 5 期には平均投資額の格差は縮小してきている。

次に、雇用を検討してみよう。全期雇用総数比率でも、アヒールが 64% と突出している。

企業数が多いことと、そのなかにも、中企業と小企業が多数含まれていることが全期雇用総数比率を引き上げている。とくに、アヒールの第 2 期中企業の平均雇用数は非常に大きく、それがアヒールの全期雇用総数を押し上げた。このため、アヒールの平均雇用数の全期平均は 15.2 人になっているが、第 3 期以降は 5~6 人台で他の 2 カーストの平均雇用数とそれほど変わらない。バルワードのカテゴリー構成はラバーリーよりも高度化しているが、業態構成において、とくに零細企業においてサービス業の比率が高いために、雇用総数比率は 19% とラバーリーの 17% とほとんど相違はない。カテゴリー構成がもっとも低次であるラバーリーは全期平均雇用数も 5.3 人と牧畜カーストのなかでもっとも低い。

(5) 地域分布

カースト集団の経営パターンは立地にも多くの影響を受けるので、表 10 に基づき、地域・県分布の特徴を把握しておこう。商工業都市や工業団地がグジャラート州内で偏在しているために、中小零細企業の立地は南グジャラートと中央グジャラートに集中している。宗教・カースト集団の地域分布のパターンは、(1) 南グジャラート集中型、(2) 中央グジャラート集中型、(3) 南・中央グジャラート分散型、(4) その他のパターンに分類できる。

集中型の定義を特定地域にカーストの経営者数の 50% 以上が分布していることに置くと、アヒールは南グジャラート集中型、バルワードとラバーリーは中央グジャラート集中型に分類できる。

ただし、アヒールの場合は、南グジャラートの比率は 52% と過半数ぎりぎり、経営者の 30% が中央グジャラートに分布している。また、アヒールの故地である半島部にも 16% の経営者が存在しており、北グジャラートを除くすべての地域で経営を行っている。もっとも経営者が厚く分布している県はスーラト県 (44%) であり、それにアーメダバード県 (25%) とカッチ県 (11%) が続いている。この 3 県だけで、アヒールの経営者数の 80% を占めている。このように、集中型の定義からは南グジャラート集中型と位置付けられるものの、実質的には中央グジャラートと半島部の商工業センターにも足場を築いており、経営展開のモビリティが高い。アヒールの故地は半島

部のなかでも、バーヴナガル県の領域であるが、ここでは商工業は展開していないために、他の地域の商工業センターに移住し経営を行っている。

バルワードは牧畜3カーストのなかで、唯一特定地域への集中度がきわめて高く、中央グジャラートに経営者の81%が集中している。バルワードは半島部から中央グジャラートにかけて分布しているが、半島部の比率は非常に小さい。中央グジャラートのなかでは、最大の商工業センターのあるアーメダバード県(53%)だけではなく、ヴァードーダラー県(11%)、アーナンド県(9%)など広範な諸県で経営に従事している。アヒールと対照的に、自カーストの故地での経営が中心となっている。中央グジャラートと南グジャラートは隣接しており、バルワードの経営者の15%がスーラト県を中心とした南グジャラートで経営を行っている。興味深いことに、競合するラバーリーの故地である北グジャラートで経営を行うバルワードはひとりもいない。

表10：カースト集団別地域・県別の代表者数および代表者数比率の分布

地域	県	代表者数(人)			合計	比率(%)			合計
		アヒール	バルワード	ラバーリー		アヒール	バルワード	ラバーリー	
中央グジャラート	Ahmedabad	72	122	95	289	24.6	52.8	42.8	38.7
	Vadodara	7	25	16	48	2.4	10.8	7.2	6.4
	Anand	1	20	5	26	0.3	8.7	2.3	3.5
	Bharuch	9	6	4	19	3.1	2.6	1.8	2.5
	Kheda	0	7	2	9	0.0	3.0	0.9	1.2
	Panchmahal	0	5	1	6	0.0	2.2	0.5	0.8
	Narmada	0	1	4	5	0.0	0.4	1.8	0.7
	計	89	186	127	402	30.4	80.5	57.2	53.9
北グジャラート	Patan	0	0	6	6	0.0	0.0	2.7	0.8
	Mehsana	2	0	3	5	0.7	0.0	1.4	0.7
	Gandhinagar	1	0	3	4	0.3	0.0	1.4	0.5
	Banaskantha	0	0	3	3	0.0	0.0	1.4	0.4
	Sabarkantha	2	0	1	3	0.7	0.0	0.5	0.4
	計	5	0	16	21	1.7	0.0	7.2	2.8
半島部	Kachchh	32	1	6	39	10.9	0.4	2.7	5.2
	Surendranagar	4	4	6	14	1.4	1.7	2.7	1.9
	Rajkot	8	3	1	12	2.7	1.3	0.5	1.6
	Jamnagar	1	3	0	4	0.3	1.3	0.0	0.5
	Bhavnagar	2	0	1	3	0.7	0.0	0.5	0.4
	Porbandar	0	0	2	2	0.0	0.0	0.9	0.3
	計	47	11	16	74	16.0	4.8	7.2	9.9
南グジャラート	Surat	130	31	63	224	44.4	13.4	28.4	30.0
	Navsari	16	0	0	16	5.5	0.0	0.0	2.1
	Valsad	3	3	0	6	1.0	1.3	0.0	0.8
	Tapi	3	0	0	3	1.0	0.0	0.0	0.4
	計	152	34	63	249	51.9	14.7	28.4	33.4
合計		293	231	222	746	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

ラバーリーの経営者の57%が中央グジャラートに集中している。ラバーリー(あるいはライカー)はラージャスターンからグジャラートにかけて分布する牧畜カーストで、グジャラート州内では、ラージャスターンに隣接する北グジャラート、カッチを含む半島部、そして中央グジャラートに厚く分布している。北グジャラートと半島部では商工業があまり展開していないため、そこの経営者数比率は各7%ほどと低い。中央グジャラートでは、アーメダバード県(43%)とヴァードーダラー県(7%)に集中している。このほか、南グジャラートのスーラト県(28%)もラバーリー

にとって重要な商工業センターとなっている。近年、ラバーリーの故地から南グジャラートのスーラト県への移住活動が活発になっている^(注5)。

ちなみに、グジャラートの他の主要な宗教・カースト集団のなかでは、パンジャービーとバニヤーが南グジャラート集中型に含まれる。中央グジャラート集中型には、部族民、職人カースト、イスラム教徒が含まれる。南・中央グジャラート分散型はグジャラート州の宗教・カースト集団にとってもっとも一般的な地域分布パターンであり、これにはパーティーダール、バラモン、上位カースト、その他後進諸階級が含まれる^(注6)。

(6) 経営者数の動向

最後に、カースト集団別の経営者数の動向を、表11で確認しておこう。同表の上段には、時期別のカースト集団別の代表者数(人)を、中段にはカースト別の時期別代表者数比率(縦列の%)を、下段には時期別のカースト別代表者数比率(横列の%)を示している。

表11：カースト集団別時期別の代表者数および代表者数比率の分布

時期	代表者数(人)			合計
	アヒール	バルワード	ラバーリー	
第1期	11	1	1	13
第2期	45	10	10	65
第3期	60	29	38	127
第4期	99	84	70	253
第5期	78	107	103	288
全期	293	231	222	746
時期	縦列比率(%)			合計
	アヒール	バルワード	ラバーリー	
第1期	3.8	0.4	0.5	1.7
第2期	15.4	4.3	4.5	8.7
第3期	20.5	12.6	17.1	17.0
第4期	33.8	36.4	31.5	33.9
第5期	26.6	46.3	46.4	38.6
全期	100.0	100.0	100.0	100.0
時期	横列比率(%)			合計
	アヒール	バルワード	ラバーリー	
第1期	84.6	7.7	7.7	100.0
第2期	69.2	15.4	15.4	100.0
第3期	47.2	22.8	29.9	100.0
第4期	39.1	33.2	27.7	100.0
第5期	27.1	37.2	35.8	100.0
全期	39.3	31.0	29.8	100.0

(出所)グジャラート州政府編纂の中小零細企業個票データ(2006-2015年)

上段の経営者数の動向で留意すべきは、第1期にはバルワードとラバーリーの経営者数は各1名に過ぎなかったこと、その後、両カーストの経営者数はコンスタントに増加し、第5期にはアヒールの登録経営者数を上回ったこと、アヒールは第4期までは経営者数が増加したが、第5期に減少に転じたことである。

これらの動向は、時期別およびカースト別の経営者数比率に大きな影響を与えた。中段のデータにみるように、分析対象の登録経営者数に占める時期別の比率には非常に大きな差がある。第1期から第5期にかけてバルワードとラバーリーはともに、1%未満から46%台まで増加した。しかし、アヒールは第5期に27%へと減少した。

これらの変化は、下段のデータにみるように、時期別のカースト間の経営者数比率を大きく変えた。第1期に85%を示したアヒールの比率は徐々に減少し、第5期には27%へと落ち込んだ。これに対して、バルワードは第1期以降に急速に比率を上げ、第5期には37%まで増加し、アヒールの比率を上回った。同様に、ラバーリーも第1期以降にコンスタントに比率を上昇させ、第5期には36%に増加しバルワードに並んだ。近年における経営者数の伸び率の動向から、バルワードとラバーリーはさらに経営者数を大きく伸ばすものと推測できる。牧畜カースト内部の人口分布でも、バルワードとラバーリーはアヒールを上回っており、潜在的な経営者層は相対的に厚い。

おわりに

本稿ではまず、牧畜カースト集団の経営展開をグジャラート州全体の企業と比較検討した。産業構成は、1) 製造業中心型、2) バランス型、3) サービス業中心型、4) 資源開発型、5) 別枠の5つに区分できる。牧畜カーストは全体としての産業構成の特徴から資源開発型であることが確認できた。また、産業構成の時期的区分の分析から、比較的近年、すなわち2012年以降に牧畜カーストの経営参入が加速したことが確認できた。セクション別では、製造業の比率が第1期から第5期にかけて大きく減少したことがわかる。その後の経営展開のなかで、零細企業のサービス業を中心とした非製造業の企業登録が急速に増加した。

経営組織については、牧畜カーストの「パートナーシップ」と「有限会社」の比率は、グジャラート州全体の企業の同比率を下回っていた。「株式会社」の企業がまったくみられないのも、牧畜カーストの経営基盤の相対的な脆弱性をあらわしている。また、企業数の圧倒的多数を占める「個人企業」の業態については、牧畜カーストはサービス業が、グジャラート州全体の企業では製造業が優勢である。

グジャラート州全体の企業と牧畜カーストの企業の立地はともに、中央グジャラートと南グジャラートを主要な地域とするが、両地域の比率は大きく異なっている。グジャラート州全体の企業は、南グジャラートが主体なのに対して、牧畜カーストの企業は、中央グジャラートが主体となっている。カテゴリー構成も地域により異なっている。牧畜カーストの場合は、中央グジャラートのカテゴリー構成は南グジャラートよりも高度化（中企業、小企業などの規模の大きい企業数比率がより高いこと）している。南グジャラートよりも強固な経営基盤を有していることの証であると捉える

ことができよう。南グジャラートでは、対照的に、零細企業が主体になっている。

本稿の第2節では、個別の牧畜カーストのなかで、経営データが活用できる、アヒール、バルワード、ラバーリーの3カーストの経営の特徴を比較検討した。

アヒールの産業構成の特徴は、「製造業」と「卸小売、修理」の比率が他の2カーストを大きく上回っていることにある。「製造業」には一定のノウハウと初期投資が必要であり、「卸小売、修理」にはネットワークが求められる。早くから定着し職業転換を行った成果が、この産業構成にあらわれているとみなすことができる。バルワードの産業構成の特徴は、資源開発型のカテゴリーの比率が比較的高いことにある。ラバーリーの産業構成は、アヒールとバルワードの中間型である。「製造業」と「卸小売、修理」の比率はアヒールに、農林や管理の比率はバルワードに次いでいる。ただし、資源開発型のカテゴリー比率がそれほど高いわけではない。

カテゴリー構成と業態別の比率の双方において、アヒールは経営基盤が強固であり、他の牧畜カーストと大きな違いのあることを示している。バルワードのカテゴリー構成はラバーリーのカテゴリー構成よりも若干高度化しているが、カテゴリー全体としてサービス業の比率が非常に高い点に経済基盤の脆弱性をみてとることができる。ラバーリーのカテゴリー構成は3カーストのなかでもっとも低次であり、その克服が、彼らの経営展開の喫緊の課題となっている。

牧畜カースト全体の経営組織は脆弱であるが、カースト間格差は大きい。個人企業の比率の高さ、業態におけるサービス業の優勢、カテゴリー構成の低さなどは、バルワードとラバーリーに共通する特徴で、経営基盤の脆弱性をあらわしている。それに対して、アヒールは有限会社やパートナーシップの比率が高く、カテゴリー構成も高度化している。牧畜カースト間にたいへん大きな経営格差が存在していることが確認できた。

このように、経営基盤のカースト間格差は大きいものの、この状態が今後も継続するわけではない。経営者数の動向分析から、アヒールの中小零細企業への経営参入が近年鈍化してきていること、バルワードとラバーリーの経営参入が近年加速していることが確認できた。彼らが経営分野に足場を築けるかどうか、さらに彼らの経営組織やカテゴリー構成を高めていけるかどうか、彼らの社会経済的発展の帰趨を左右する重要な課題となっている。

注

- (1) このうち、指定カースト、指定部族、その他後進諸階級の3集団は後進的集団として留保制度（Reservation System）の受益集団に位置付けられている。
- (2) 個別の産業名はスペースの関連で略記してある。産業名の詳細は以下のとおりである。A：農林水産業；B：採掘と採石；C：製造；D：電気、ガス、蒸気、空調用電源；E：給水、下水道、廃棄物管理および修復活動；F：建設；G：卸売業および小売業、自動車およびオートバイの修理；H：輸送と保管；I：宿泊施設と奉仕活動；J：情報とコミュニケーション；K：財務活動と保険活動；L：不動産活動；M：専門的、科学的、技術的活動；N：管理およびサポートサービス活動；O：行政と防衛；義務的社会保障；P：教育；Q：人間の健康と社会的活動；R：芸術、エンターテインメント、レクリエーション；S：その他のサービス活動；T：雇用者としての世帯の活動；U：外部行政機関および団体の活動。
- (3) カテゴリーは、プラントと機械への投資額を基準に産業別（製造業とサービス業）で別個に設定されている。ちなみに、製造業の場合は、投資額が250万ルピーまでが零細企業、250万ルピーから5000万ルピーまでが小企業、5000万ルピーから1億ルピーまでが中企業に分類されている。サービス業については、投資額基準が製造業よりも低く設定されており、投資額が100万ルピーまでが零細企業、100万ルピーから2000万ルピー

までが小企業、2000万ルピーから5000万ルピーまでが中企業に分類されている。本稿の分析対象は中企業までであるが、それよりも投資額の規模が大きい事業は、大工業(Large Industry)と分類される。

- (4) 牧畜カースト以外の宗教・カースト集団の投資額については、篠田(2019:423)の表「グジャラート州の宗教・カースト集団別時期別平均投資額と平均雇用数の推移」を参照のこと。
- (5) 筆者が2016年に実施したラバーリー子弟とその家族を対象とした就学就業調査でも、スーラトへの出稼ぎや移住が活発になっていることを分析している。
- (6) これらの詳細については、篠田(2019:第12章)を参照のこと。

参考文献

- 篠田隆(2019)『インドにおける経営者集団の形成と系譜——グジャラート州の宗教・カーストと経営者』日本評論社。
- 篠田隆(2015a)『インド農村の家畜経済長期変動分析——グジャラート州調査村の家畜飼養と農業経営』日本評論社。
- 篠田隆(2015b)「日帰り放牧の家畜構成と資源利用——インド・グジャラート州の事例を中心に」『大東文化大学紀要(社会科学)』第53号、249-271頁。
- 篠田隆編(1997)『発展途上国の経営変容』未来社。
- 篠田隆(1995)『インドの清掃人カースト研究』春秋社。
- Shinoda, Takashi(2013a) “Nomadic Cattle Herders and Customary Rights for Grazing in North Gujarat, India”, *ANVESAK*, Vol.43, No.1, pp.1-19.
- Shinoda, Takashi(2013b) “Changing Political-Economy of Livestock in British Ahmedabad District: Famines, Plagues and Polarization of Rural Economy”, *ANVESAK*, Vol.43, No.2, pp.1-14.
- Shinoda, Takashi (ed.) (2002) *The Other Gujarat: Social Transformation among Weaker Sections*, Mumbai: Popular Prakashan.